

東海第二発電所 防潮堤の不具合事象に係るコメント

No	分類	コメント日	指摘事項	回答日	回答概要
1	不具合の全容	2024. 5. 7	不具合の全容を示すこと。	2024. 5. 21	不具合の全容については、調査結果を示した上で、保守的な評価を踏まえた全容について資料に記載しました。
2	不具合の全容	2024. 5. 7	【例示】 ①地山側のコンクリート未充填部、②地山側の鉄筋の変形、③中実部側の根入れ部の未充填、④中実部のコンクリートが充填されて見えないところの鉄筋の変形、⑤地中連続壁の下部の堆積土砂の有無、⑥コンクリートの強度等の項目を含めた不具合全容について示すこと。	2024. 5. 21	不具合の全容については、調査結果を示した上で、保守的な評価を踏まえた全容について資料に記載しました。
3	資料の適正化	2024. 5. 7	資料の作成においては、前回の審査会合の回答がわかるように会合用の資料の形にすること。	2024. 5. 21	パワーポイント資料に前回の審査会合コメントとそれに対応する回答がわかるよう記載しました。
4	既工認との相違点	2024. 5. 7	不具合全容を踏まえての既工認との相違点について示すこと。	2024. 5. 21	パワーポイント資料に既工認との相違点がわかるよう記載しました。
5	課題の整理	2024. 5. 7	相違点を網羅的に抽出した上で、課題を整理すること。		
6	対応策	2024. 5. 7	課題を網羅的に抽出した上で、対応策を示すこと。		
7	構造評価	2024. 5. 7	その対応策を踏まえて耐震耐津波評価を示すこと。		
8	コンクリート未充填	2024. 5. 7	PPTのp. 19の音響探査結果を各深度での測定値の平均と最大値を示しているが、会合の主旨からすると平均値はあまり意味がないと思う。どちらを用いるかをよく考えて説明すること。	2024. 5. 21	パワーポイント資料に未充填深さを最大値で表示しました。
9	記載の適正化	2024. 5. 7	PPTのp. 30、補足資料27のp. 59の施工時と不具合対策後の施工記録が混じっているためわかりにくいので、いつの時点での記録データなのか区別して記載すること。	2024. 5. 21	パワーポイント資料に施工記録がいつの記録であることを記載しました。
10	記載の適正化	2024. 5. 7	PPTのp. 33での「レッド検尺」についてわかりやすく注記を入れること。	2024. 5. 21	「レッド検尺」の注記を記載しました。
11	音響探査	2024. 5. 7	PPTのp. 80以降の音響探査の結果では、久米層の分布範囲において壁厚が厚くなる箇所が確認されるがその原因に回答出来るように用意すること。	2024. 5. 21	連壁掘削機の掘削精度である1/500の範囲内であり掘削範囲として問題ないことを口頭で説明します。
12	記載の適正化	2024. 5. 7	補足資料27のp. 175のデータはT. P. -37mまでしか示されていませんが、記録は正しいのか。確認すること。		
13	音響探査	2024. 5. 7	南基礎、北基礎の中実部の掘削深度と音響探査の掘削深度が異なっていることを明示すること。	2024. 5. 21	パワーポイント資料（参考資料）の中の北基礎及び南基礎調査図に深度を記載しました。
14	記載の適正化	2024. 5. 7	補足資料27のp. 87の表中の○×の判断基準について明記すること。		
15	記載の適正化	2024. 5. 7	補足資料27のp. 87の⑦の区画の右側の○×の判断が示されていないが記載を追記すること。		
16	音響探査	2024. 5. 7	補足資料27のp. 82の図5. 3-42の地中連続壁の鉄筋の設置深度と上部の黒くなっていない箇所の詳細について示すこと。	2024. 5. 21	上部の記録は、ガイドウォールの設置範囲であることを口頭で説明します。
17	記載の適正化	2024. 5. 7	補足資料27のp. 83の(2)本文中の「浮き錆でない錆」について詳細に示すこと。		
18	音響探査	2024. 5. 7	PPTのp. 18での音響探査の「精度良く計測できる範囲」について示すこと。	2024. 5. 21	モックアップ試験の結果も踏まえて、音響探査の精度についてコメント回答資料（word資料）で説明します。